

令和8年「いわて復興ウォッチャー調査」 結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 151名
※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

令和8年1月

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感(被災者の生活の回復度及び直近1年間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感(地域経済の回復度及び直近1年間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度及び直近1年間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 79.5%(120名/151名) <前回 77.5%(令和7年1月調査)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	85	70.8%
女性	35	29.2%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	41	34.2%
沿岸南部	79	65.8%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	3	2.5%
40歳代	21	17.5%
50歳代	51	42.5%
60歳以上	45	37.5%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	61	50.8%
被災なし	56	46.7%
不明	3	2.5%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会(入居当時)、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など) 44名(36.7%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など) 36名(30.0%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など) 40名(33.3%)

■参考■

○「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。

「進捗状況」とは、直近1年間の進み具合についてお尋ねしています。

○沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、

沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

※ 「進んでいない」「あまり進んでいない」等の合計値は、小数点第2位以下を切り捨てた上で合計しています。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計は80.6%と、前回(80.7%)を0.1ポイント下回った。「回復していない」「あまり回復していない」の合計は2.5%と、前回(1.8%)を0.7ポイント上回った。

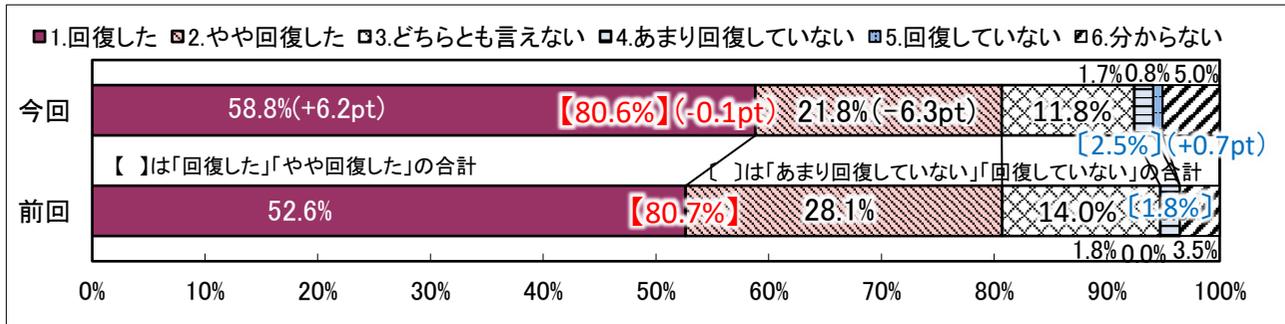
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部は63.4%と、前回(41.0%)を上回った。沿岸南部は56.4%と、前回(58.7%)を下回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部は75.6%と前回(76.9%)を下回った。沿岸南部は83.3%と、前回(82.7%)を上回った。なお、沿岸北部と沿岸南部の差は7.7ポイントと、前回(5.8ポイント)から拡大した。

○直近1年の進捗状況を見ると、「進んでいる」が31.7%と、前回(30.7%)を1.0ポイント上回った。「進んでいる」「やや進んでいる」の合計は45.0%と前回(49.1%)を4.1ポイント下回った。

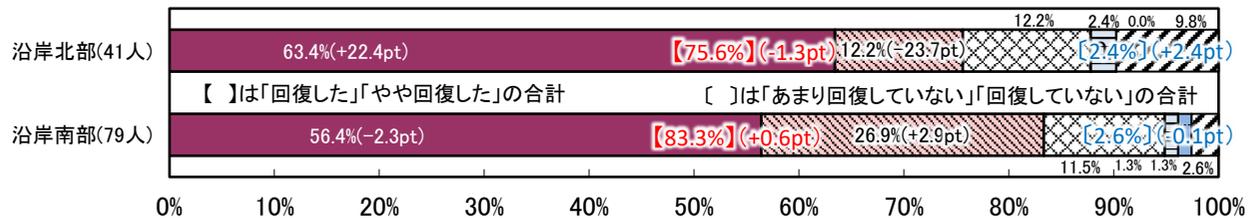
住宅の再建が進むとともに、交通網が整備されたことなどにより利便性が向上し、生活が落ち着いてきたとする声がある一方で、人口減少や物価高騰への対策が必要であるという声があった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

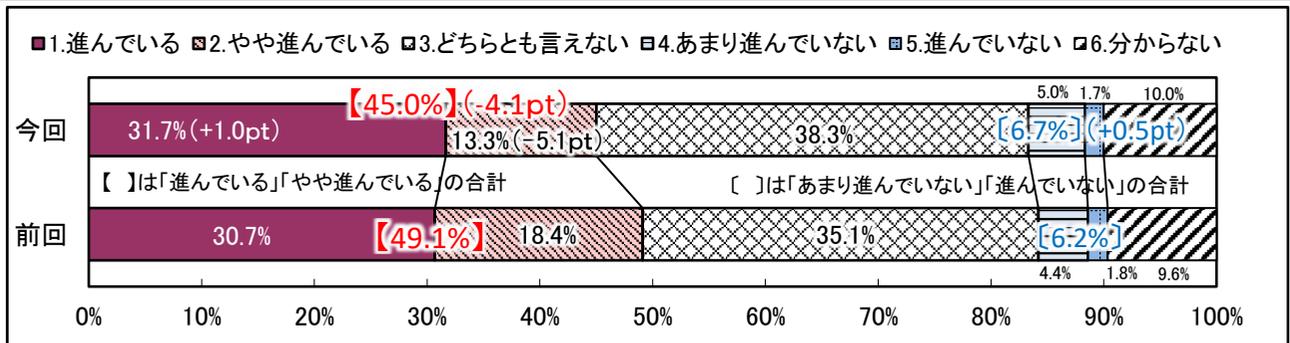


地域別

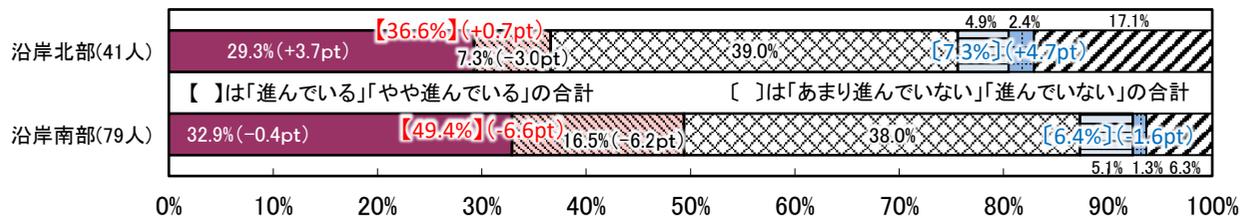


② 直近1年間(おおむねR7年1月からR7年12月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(1年間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆住環境に関しては回復していると思う。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部) ◆震災を起因としたものについては回復している。現在の問題は人口減による人手不足や物価高、賃金上昇など震災とは別の問題である。(50歳代、産業・経済・雇用関係、沿岸南部) ◆インフラや住宅再建などのハード事業は完了しているように思うから。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部) ◆三陸沿岸復興道路の全線開通やインフラ整備等交通網は大きく改善された。これに伴い生活の面でも大きな変化を感じる。これからは、震災後15年を経過し震災を知らない世代に向けて被災当時の状況を正確に、かつ、継続的に伝承していくことの重要性を感じる。(60歳以上、教育・福祉施設関連、沿岸北部)
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆震災以外の要因も重なり、生活の回復がなされているかは疑問(物価高や人口減少等)。(50歳代、産業・経済・雇用関係、沿岸南部) ◆公営住宅に一般入居が増えた一方、高齢化、高齢独居が増加している。コミュニティについて今後も課題である。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆被災者の住環境は整い、落ち着いた生活をしているように感じる一方で、この一年間はあまり変化はない。(50歳代、産業・経済・雇用関係、沿岸南部) ◆ハード面は数年前より概ね回復していると思う。生活の回復は物価高騰による消費減少は否めないと感じる。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸北部) ◆震災からの生活は落ち着いて回復できているが、心配なのは食料品の高騰で生活が回復できない状況である。(60歳以上、産業・経済・雇用関係、沿岸南部) ◆住環境に関しては回復していると思う。生活の回復については、震災後、若い人たちが内陸へ引っ越し、今、小学生・中学生となる子どもたちが激減している。それに伴い30代～40代の方々が少なく、商業やサービス業などは停滞しているように感じる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆住環境は震災前と同じくらいに回復したが、物価の高騰で生活が苦しくなっている。(40歳代、産業・経済・雇用関係、沿岸南部) ◆住宅再建する方々も落ち着き、回復しているように見えるが、三陸道開通により、市内の交通量が減ったことで、移動手段(車)のある人より、無い人は生活に不便を一層感じるのだと思う。公共交通機関は充実していると言えず、改善が必要。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)
<p>「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆被災し再建。ようやく安定した生活ができつつあると思った矢先の森林火災。二度の自然災害で仮設住宅に再度入居している被災者もいる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計は46.7%と、前回(48.3%)を1.6ポイント下回った。「回復していない」「あまり回復していない」の合計は20.0%と、前回(16.4%)を3.6ポイント上回った。

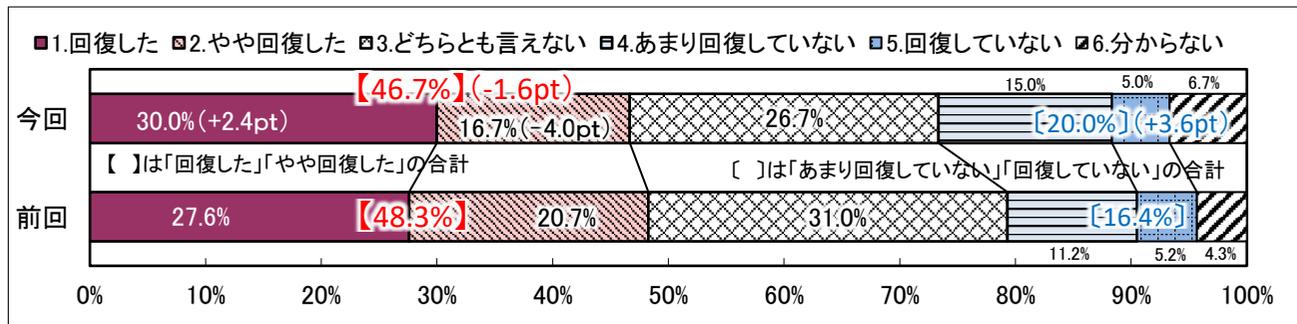
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部は31.7%と、前回(17.9%)を上回った。沿岸南部は29.1%と、前回(32.5%)を下回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部は48.8%と、前回(43.5%)を上回った。沿岸南部は45.6%と、前回(50.7%)を下回った。なお、4年ぶりに沿岸北部が沿岸南部を上回り、その差は3.2ポイントであった。

○直近1年の進捗状況を見ると、「進んだ」が16.0%と、前回(18.1%)を2.1ポイント下回った。「進んだ」「やや進んだ」の合計は30.3%と、前回(31.9%)を1.6ポイント下回った。

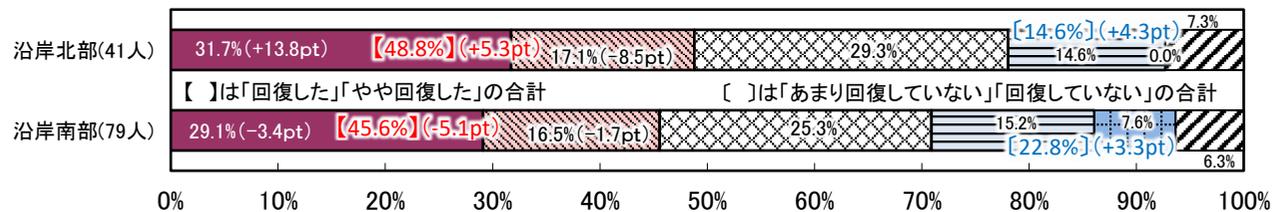
なりわいの再生や交通ネットワークの整備により、物流や人的交流が拡大したことなどから地域経済の回復が進んだとする声がある一方で、人口減少、水産業の不振、復興事業の完了に伴う公共工事の減少や物価高騰など、震災以外の要因により、地域経済に活気が感じられないという声があった。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

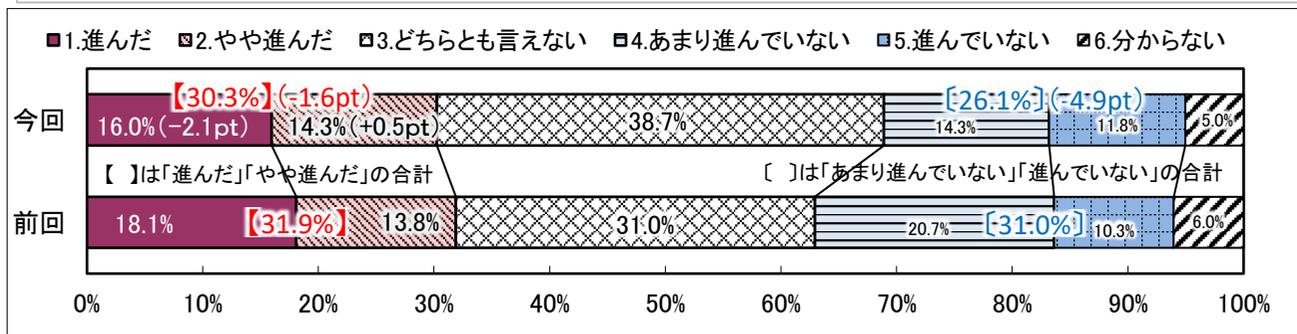


地域別

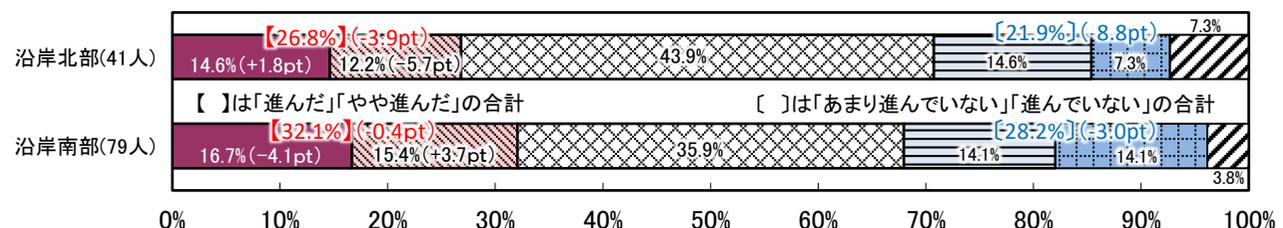


② 直近1年間(おおむねR7年1月からR7年12月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(1年間程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	<p>◆震災後の様々な支援により、経済は回復したと思う。しかし、温暖化の影響により基幹産業に大きく影を落としていると感じる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆町内で被災した海産物関連、水産業の会社や工場が再建され、通常と変わらず営業しているように感じるから。(60歳以上、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	<p>◆震災の影響を感じられなくなりつつあるという面で回復といえるが、この14年間の他の様々な出来事による経済の落ち込みは大きい。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆地域経済に関しては、特に水産業については、震災以前の水準に達していないと感じる。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</p> <p>◆大規模林野火災によって、住民が市外へ移り住んだり、様々な地域の行事等が一時自粛されるなど、地域経済の停滞の要因となることが発生した。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆震災後から過疎化が急速に進み、人口が減っている中の回復になるので、どちらとも言えない。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆震災前と比べて回復したかどうかはどちらとも言えないと思う。自動車道の開通により物流や人的交流は以前に比べて活発になっていると感じているが、人口減少や高齢化により規模の縮小を感じている。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆この1年間限定でみると、変化は見られない。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p> <p>◆被災により地域経済の構図は小さな街なので変化したとは思。主力の漁業は温暖化等でダメージを受けている。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</p> <p>◆震災復興道路の開通に伴い物流や人的交流が活発になり観光面などで地域経済に貢献していると感じるが、他方、復興事業特需の終息による就業場所の減少や少子高齢化及び物価高など現在の経済状況から営業を止める事業者がいる。(60歳以上、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆復興需要終息に伴う関係者の人口流出、水産業の低迷等マイナス要素が多岐にわたる。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆飲食店の新規開業も見られるが、物価高で生活が厳しくなっており、街に賑わいは見られない。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p> <p>◆被災というくくりを超えて、他の要因も加わっての地域経済なので、よくわからない(物価高、温暖化、人口減少など)(60歳以上、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<p>◆震災復興工事の終了、主要魚の不漁、コロナウイルス等の理由から一度回復を見せた経済も再び落ち込んだ。建設業は特に影響が大きい。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆少子高齢化や人口減少による村の活性化に大きなマイナスの影響があると思われる。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p>

注1)「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3)掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連：応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連：小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連：漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」「やや達成した」が76.9%と、前回(76.1%)を0.8ポイント上回った。「達成していない」「あまり達成していない」の合計は4.3%と、前回(5.1%)を0.8ポイント下回った。

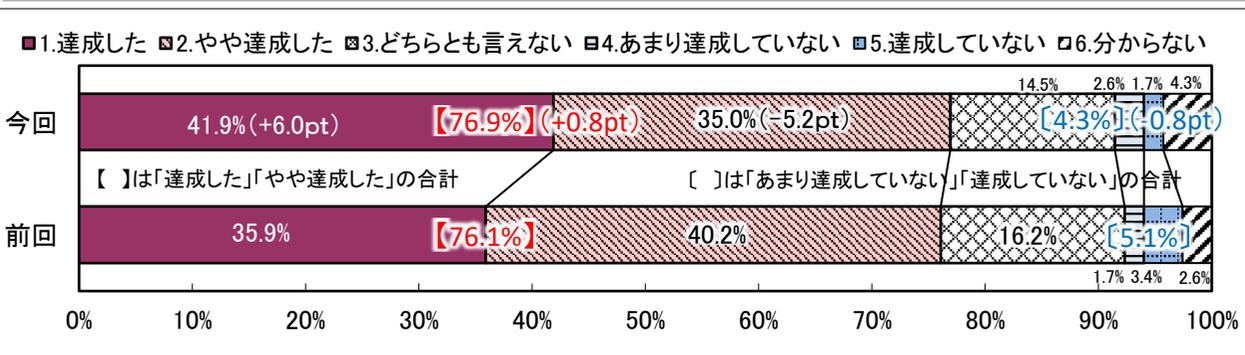
○地域別では、「達成した」が、沿岸北部は34.1%と、前回(25.6%)を上回った。沿岸南部は46.1%と、前回(41.0%)を上回った。「達成した」「やや達成した」の合計は、沿岸北部は70.7%と、前回(69.2%)を上回った。沿岸南部は80.3%と、前回(79.5%)を上回った。なお、沿岸北部と沿岸南部の差は9.6ポイントと、前回(10.3ポイント)から縮小した。

○直近1年間の進捗状況を見ると、「進んでいる」が29.3%と、前回(24.8%)を4.5ポイント上回った。「進んでいる」「やや進んでいる」の合計は60.3%と、前回(60.7%)を0.4ポイント下回った。

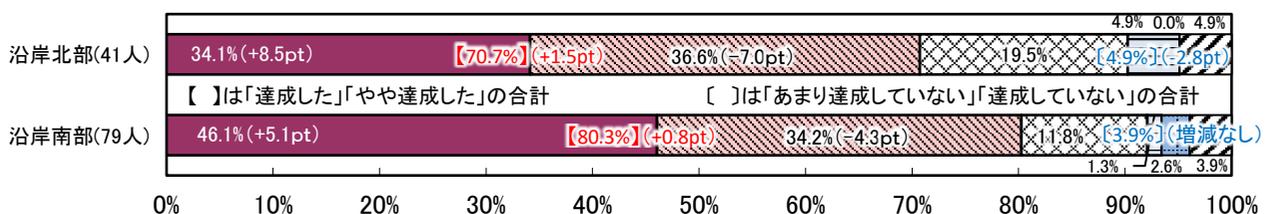
防潮堤などのハード整備が進み、災害に強い安全なまちづくりが進んだことを実感する声があった一方で、年数の経過による防災意識の風化への懸念や、避難訓練や防災教育といったソフト面の対策の重

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

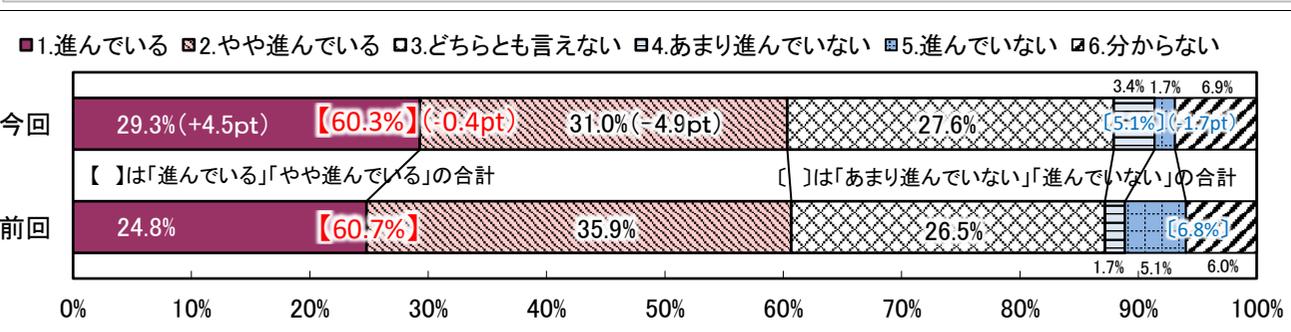


地域別



② 直近1年間(おおむねR7年1月からR7年12月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(1年間程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* ()内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆防潮堤も整備されているし、地震津波警報・注意報の際の防災放送や緊急通知メール等での周知もしっかりできているし、日頃の防災訓練にも力を入れているから。(60歳以上、教育・福祉施設関連、沿岸北部) ◆ハード面は充実している。あとは時間の経過による住民の意識低下がないよう、取組を続けていく必要がある。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部) ◆今年も地元高校生による小学校への防災出前授業があった。津波の経験のない子どもたちへ伝えていくのは今後も必要だと思う。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆防潮堤の整備、津波伝承館等、ハード面は完了したと感じる。最近の大きな地震(その後の津波注意報や警報)でも、安心して行動に移している。中学生が防災フェスタのボランティアを行うなど、“語り継ぐ”というフェーズに入ってきたと感じる。子どもたちの力に期待したい。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ハード面の対策は終了している。ソフト面の継続、伝承が問われる。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆自治体は努力していると思うが、各個人の意識に差があるようである。学校体育館を避難所にする場合、暑さ対策(エアコン設置)をしっかりとしてほしい。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部) ◆津波注意報等が出されることで、備えを見直すきっかけになったが、高齢化も進んでおり、車避難など、避難方法のあり方を考える時期に入っていると感じる。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部) ◆震災前に比べると、水門整備など災害関連の整備はかなり進んだと思う。多くの教訓が生かされていると思うが、住む人の意識レベルでの継承が今後必要になってくる。新しく住み始める人、未来を担う子供たち等を巻き込みながら意識を高めることで災害に強い安全なまちづくりができると考える。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆様々な取組はなされていると思うが、人々の意識は低下してきているかもしれない。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部) ◆ハード面は完成したが、ソフト面(意識の違い、よそから来た人達への避難の注意、観光交流など)に対してどう対応するか。(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部) ◆行政主導による防潮堤の整備等の安全面の強化や学校教育における復興・防災教育の充実により、自助や共助への意識高揚が図られていると感じる。一方で、昨年度との取組の違いや改善が目に見える形になっているかと言うと、それほど実感がなく、不明というのが正直なところである。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆12月8日の地震(青森県東方沖地震)による避難において、さらに考えなければならぬ点が浮き彫りになったと感じる。(30歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)
<p>「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆完全に回復したので、これ以上進まないと思う。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)

注1)「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

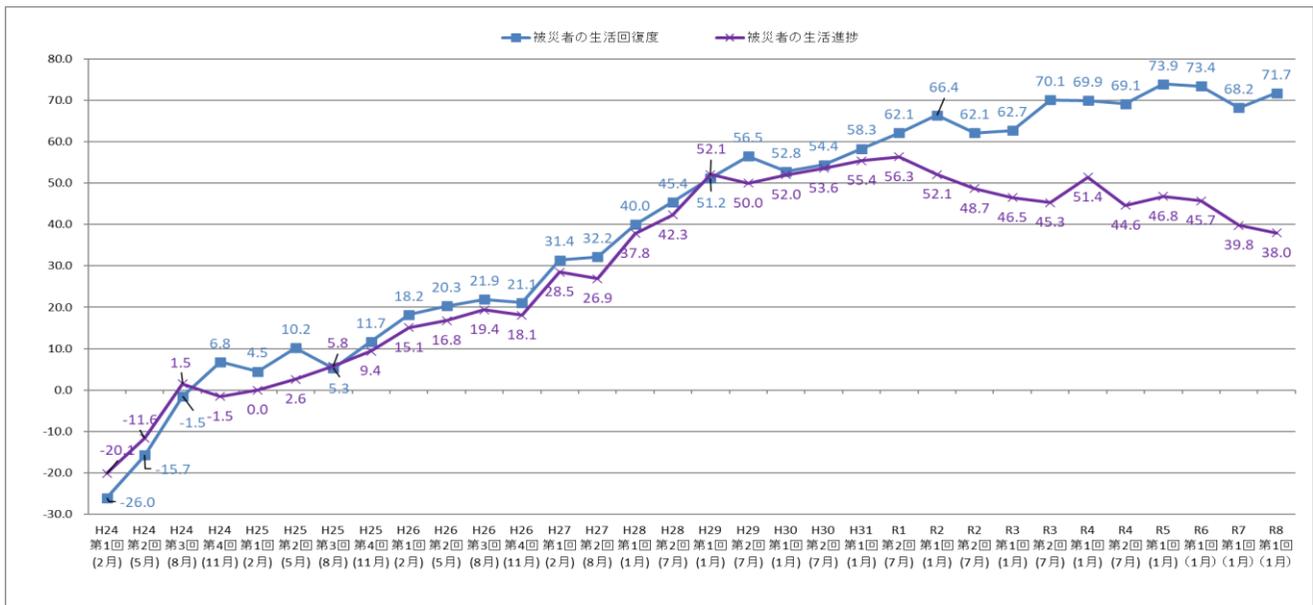
いわて復興ウォッチャー・動向判断指数(DI)の推移

<動向判断指数(DI)>
 掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数(DI)について時系列にその推移を表わしたものである。動向判断指数(DI)は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する。

$$\text{動向判断指数(DI)} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

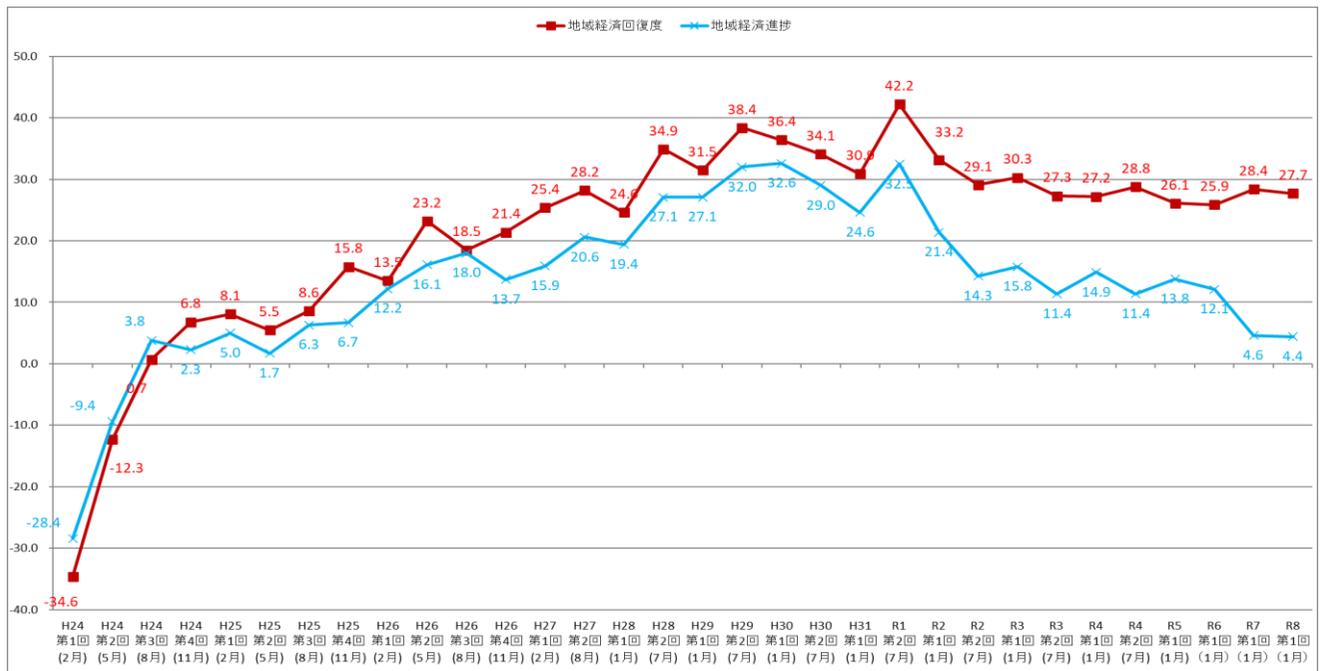
 (注) 100に近づくほど、「回復した」の回答割合が高い。
 (注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる(他の選択肢についても同様)。

【被災者の生活】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



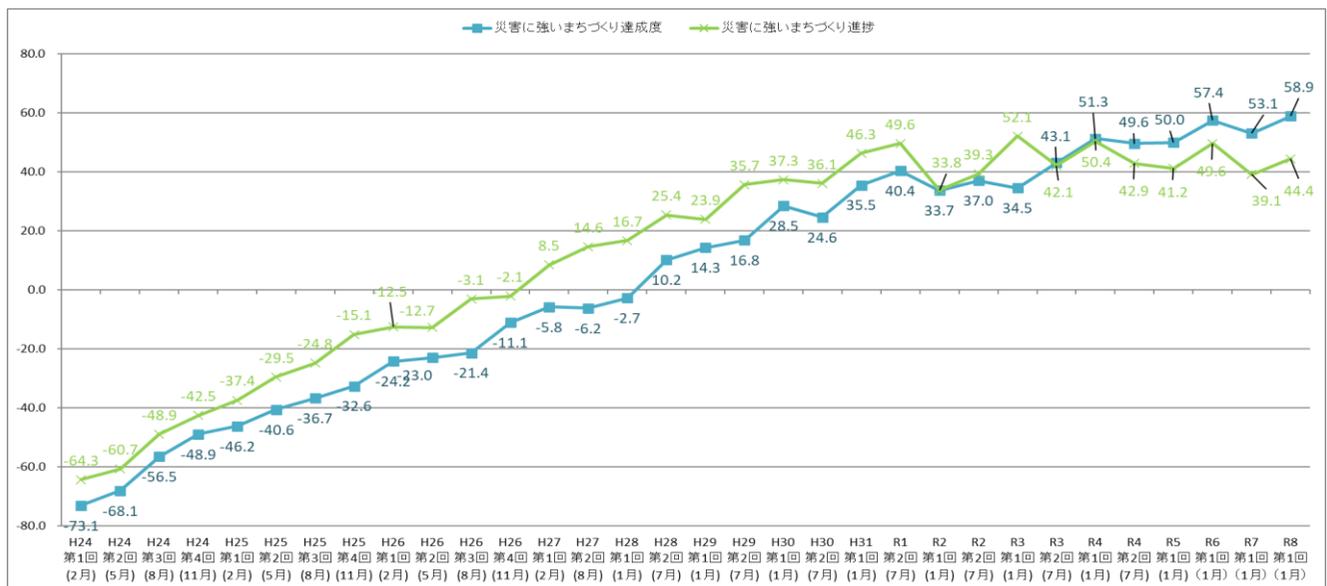
※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月、R5調査以降は直近1年(今回であれば、おおむねR7年1月～R7年12月)を指す。

【地域経済】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月、R5調査以降は、直近1年(今回であれば、おおむねR7年1月～R7年12月)を指す。

【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月、R5調査以降は直近1年(今回であれば、おおむねR7年1月～R7年12月)を指す。

令和8年「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告

発行

令和8年3月2日

岩手県

復興防災部 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話 019-629-6935

ホームページ：いわて復興ウォッチャー調査について

<https://www.pref.iwate.jp/shinsaifukkou/fukkounougoki/chousa/watcher/1002363>